



クリスチャンパートナーズ

通信第 72 号

-
- ・発行日 / 2007 年 7 月 5 日
 - ・事務局 / 〒422-8053
静岡市駿河区西中原 2 - 7 - 63 - 1001
草野計雄方
 - ・発行所 / クリスチャンパートナーズ
 - ・Tel / Fax 054-283-9317
 - ・e-mail / cnc-kk@mail.wbs.ne.jp
 - ・http://www2.wbs.ne.jp/~c-p/
 - ・郵便振替口座 / 00150 - 0 - 134994
-

『わたしは・・・あなたたちの神となり、
あなたたちはわたしの民となる』

(旧約聖書レビ記第 26 章 12 節、新約聖書ヘブライ人への手紙第 8 章 10 節)

理事長 木ノ内一雄

5 月 28 日(月)の理事会では、二期目を終え帰国中のアンテオケ宣教会の高橋めぐみ先生をお迎えして、インドネシアの現状をお伺いしました。先生はポンティアナック市から内陸に入ったアンジュンガンの ATI 神学校で教師として働いておられます。わたしたちも先生を通して、神学生をはじめインマヌエル中学校やセイダウン小学校に学ぶ生徒たちの勉学が続けられるようお手伝いをしてきました。インドネシアでのさまざまな困難の中、御言葉のために労しておられる先生のお話は実感がこもっており、勇気づけられるものでした。

カナンの地に飢饉が襲った時、ヤコブ(イスラエル)の家族 70 人はエジプトに下りました。それから 430 年後、200 万から 300 万に増えたイスラエルの民はエジプトで奴隷となっていました。神から遣わされた預言者モーセは、この民をエジプトから導き出しました。それはこのみ言葉のためでした。イスラエルの民はその後、40 年間荒れ野で放浪し、約束のカナンの地に入りました。主イエスがこの世に来られたのも、このみ言葉のためでした。ただし、エジプトの地は「この世」で、荒れ野での生活は「キリスト者としての歩み」、そして約束の地は「新しい都」です(新約聖書黙示録第 21 章)。



セイダウン小学校の生徒

インドネシアの神学生や中学生たちの学費援助、教師給与への支援ができることは大きな喜びです。彼らもまたこの御言葉のために労するようになるからです。又、彼らが日本のために祈っているのを知り感謝しました。高橋めぐみ宣教師は 6 月 20 日に帰任され、第三期目のご奉仕に就かれました。先生のお働きがますます実りあるものになるようお祈りいたします。

高橋めぐみ宣教師による現地報告



去る5月28日の理事会に、上京中の高橋めぐみ宣教師をお招きして、西カリマンタンでの先生のご奉仕の現状や、クリスチャン パートナーズの支援を受けている人々の様子を詳しく伺う機会が与えられました。以下はその要約です。木ノ内牧師夫妻が支援しておいでになるマルティネス神学生は、アンボンの近くでの伝道実習を5月末で無事終了し、6月一杯をいわば休息期間として、7月には学校に戻ってきます。

(「通信」第67号70号参照)

話をされる高橋先生 現在3年生の神学生4名は、6月1日の派遣式に参列し、伝道実習に向かいます。

タンジュンブラ大学で教育学を学んでいた奨学生のデヴィ・スサンティは卒業し、イカの高校で教師として働き始めました。(「通信」第69号参照、奨学金月額1000円)

クリスチャン パートナーズは、セイダウン小学校の教師2名の給与を支援していますが、必要に迫られてこれを3人分に分けています(日本の他の団体からも相当額の支援金が送られています)。セイダウン小学校には154名の生徒がいて、教師は12名です。キリスト教主義の私立学校ですが、イスラムの子供も10名入っています。公立学校は二部教授などで授業時間が少なく、教師は給料が充分でなく他の仕事に就かなければ生活が出来ないなどで教育環境が悪く、費用がかかってもセイダウンに入れたいと思う親が多いのです。



セイダウン小学校

インマヌエル中学校の生徒17名は、2006~07年にも奨学金を受けています。卒業する生徒に替わって新しく奨学生になる生徒たちの挨拶状は、その内届くでしょう。今まで届いた証の中で中学生たちが自分の将来について夢を語っていますが、高校を出た時点での職業の選択肢は、公務員や教師への道など非常に狭いようです。

アンジュンガンのATI神学校の奨学生は現在4名です。マルティネス兄を加えて、5名の神学生がクリスチャン パートナーズの支援を受けていることになります。

その他、神学校での講義や学生の生活指導、遠隔地に散在する教会の訪問、アンテオケ宣教会が関係する養護施設4箇所の運営など、交通手段も十分でないなかを自動車、船を乗り継いで東奔西走しておいでになるご様子や、西カリマンタンの困難な経済状態、

不安定な政治情勢、異なる宗教の信者間の確執、部族紛争など多方面にわたるお話をうかがいました。細面の高橋先生の華奢なお体の中に、どうしてこれだけの重責を全うされるエネルギーがあるのだろうと、一同不思議に思うと同時に、先生の強固な信仰と主の守り、導きに驚嘆せざるを得ませんでした。続く理事会で、来年度の予算に教師の給与援助を3人分に増額することを話し合いました。



理事会出席者と共に

前列左から：松本顧問、木ノ内理事長、高橋宣教師、草野・宮澤両理事

(文責：鳥海百合子)

後列左から：鳥海・竹澤・木ノ内和美・庄司各理事、奈須監事

静岡在住の会員 高橋宣教師と懇談

5月29日午後、帰阪途中の高橋宣教師を静岡ホテルアソシアにお招きして、静岡在住の支援会員たちと懇談の時をもちました。

参加者10名のうち、草野夫婦と私以外は高橋先生と初対面でしたが、会場のカフェのムードやケーキが美味しいこともあって、最初からざっくばらんに話が弾みました。ホテルアソシアでの懇談会 インドネシアでの宣教や暮らしぶり、地域の人々とのコミュニケーションのとり方などが関心をもたれました。「国際ことば学院」でインドネシアの学生たちに日本語を教えている方が、学生たちの勤勉さを褒めていらっしゃるのを聞いて、クリスチャン パートナーズ以外の方からインドネシアとの交流の話の聞いたことをうれしく思いました。参加された方々がみな潑刺として笑顔がすてきなため、その若々しさに高橋先生が感嘆していらっしゃいました。名残を惜しみながら再会を祈り、お見送りしました。



「国際ことば学院」でインドネシアの学生たちに日本語を教えている方が、学生たちの勤勉さを褒めていらっしゃるのを聞いて、クリスチャン パートナーズ以外の方からインドネシアとの交流の話の聞いたことをうれしく思いました。参加された方々がみな潑刺として笑顔がすてきなため、その若々しさに高橋先生が感嘆していらっしゃいました。名残を惜しみながら再会を祈り、お見送りしました。
(企画・報告：竹澤三佳子)

セイダウン小学校の新校長サビナ先生のご挨拶

サビナ校長



主の御名を賛美し、イエスキリスト様の御愛とお助けによって、セイダウン小学校が近隣の子供たちの学びの場として与えられていることを心より感謝しております。

この手紙と共に、教師一同を代表して、皆様のお祈りとご支援に心からの感謝の言葉を申し上げます。

皆様の上に主のお恵みが常に変わらず注がれますようにお祈りいたします。 2007年3月21日 校長 サビナ

セイダウン小学校の生徒たち



学校周辺の景色



デヴィ・スサンティの証

今日まで神様の愛に生かされ、学ぶ機会を与えられた事は、神さまからの素晴らしい賜物と私は思います。

高校卒業と同時に、私は大学に進みたいという希望を持ちました。聖書のみ言葉は私の力と支えとなりました。旧約聖書箴言 23 章 18 節「確かに未来はある。あなたの希望が絶たれることはない。」や、新約聖書フィリピの信徒への手紙 4 章 6 節「どんなことでも、思い煩うのはやめなさい。何事につけ、感謝を込めて祈りと願いをささげ、求めているものを神に打ち明けなさい。」これらのみ言葉は私が夢をつかむために、これからの歩みに勇気を与えてくださいます。

ザイトウン学生寮でのデヴィさん↓



タンジュンブラ大学の教育学部で学んでいたデヴィさんが、まだ学生寮にいたとき書いた文です。高橋宣教師がお持ちくださったものを、稲葉さんに訳していただきました。
彼女は今、教師としてイカの高校で働いています。

こちらのキャンパスでは、クリスチャンの誠心を育てるところとして、PMK(クリスチャン学生会)という会があります。その会で私はいろいろなことを学び、他学部でも同じ信仰を持つ学生と友達になれます。神様の僕として私の持っている才能で、何かできることがあればと少しずつ勉強しています。

在学中はクリスチャン寮で生活しなければなりません。はじめは沢山の規則を守らなければならないことをつらく感じましたが、2年目に入って寮での生活が楽しくなり、家族から離れていてもさほど淋しいとは感じません。寮での「素敵な集団生活」を満喫しています。一緒に生活している学生たちの性格や考え方はそれぞれ違いますから、うまく付き合うためにいろいろ勉強しなければなりません。寮での生活で私の心も体も成長していきます。少しずつですが以前の習慣や性格を削り取り、神様が新しい私を創ってくださいます。

高橋めぐみ先生の愛情あふれたご指導と、先生を通してご支援くださった方々に心から感謝申し上げます。神様はきっと先生のお働きの上に沢山の恵みを注いでくださり、支援者の皆様を守ってくださることと信じています。

私からのお願いですが、勉強が順調に進み卒業できますように、皆さまどうぞお祈りください。そうすれば両親を喜ばせてあげられますし、神様の僕として生きていくことができますでしょう。

デヴィ・スサンティ 2007年3月26日



森本元宣教師のお嬢さんとデヴィさん

【理事会報告】第145回理事会は2007年3月12日(月)一ツ橋学士会館で開催。前回議事録承認。2007年1・2月度会計報告承認。ガーナプロジェクトの視察報告は未着。支援金は預かり金として保持。帰国中の高橋めぐみ宣教師をお招きする日時を次回理事会当夜に決定。ホームページ改善作業は進行中で「通信」をそのまま掲載する。「通信」第72号は高橋宣教師の報告を中心に6月末発行予定。海外送金手続きの厳格化に伴い会則を更新。

第146回理事会は2007年5月28日(月)一ツ橋学士会館で開催。開会前に高橋宣教師より西カリマンタンの現状報告を伺う。前回議事録承認。2007年3・4月度会計報告承認。ガーナプロジェクトの視察報告が到着し、正式に支援を開始する。SAC里子に異動16名、現在里親・里子共に61名。ロンドンで7月7・8日開催の国際評議会に、木ノ内和美・草野両理事出席予定。

第147回理事会2007年7月23日(月)一ツ橋学士会館で開催予定。

<編集後記>梅雨を飛び越して真夏が来たような天候ですが、いかがお過ごしですか。高橋宣教師から直接お話をうかがえ、写真も加わり、皆様に喜んでいただける紙面になったかと思ひます。鳥海百合子